

種目別優勝者決定戦（エキシビション）

実施方法

- この競技は、選手全員の中から各種目ごとに上位から8～10名を選出し、会場前方の競技席で競技を行い、各選手の計算時間を記録し、正答数の多いものから順位を決める。
なお、正答数が同数の時は、計算時間の短いものを上位とする。
- 選手は、全ての解答を記入後、「はい」と言って、筆記用具を持った手で早押しボタンを押す。
計測機器の誤作動の可能性などを考慮し、念のため競技委員は選手の前方左右に立ち、ボタンを押した順を記録する。また同じ位置に、2名の撮影担当委員を置き、タブレット等で撮影する。
競技委員が判定に迷った際は、撮影した動画を確認し、ボタンを押した順を確定する。
- 決定戦で満点を取った選手のなかで、ボタンを押したのが最も速かった選手を種目別優勝者とする。
満点の選手がいない時、または満点を取った選手全てがボタンを押さなかった時はその種目の優勝者は無しとし、最上位を2位とする。
- ☆制限時間内であっても、全ての選手がボタンを押した時点で、競技を終了する。
- ☆ボタンを押す際に答案用紙を裏返さなくてもよい。
- ☆種目別優勝者決定戦では、参加部門に関わらず、コンマは付けなくてもよい。

決定戦進出者

- 300点が4名、295点が5名、290点が1名の時は、290点以上の10名。
- 300点が4名、295点が5名、290点が2名の時は、295点以上の9名。
- 300点が4名、295点が4名、290点が3名の時は、295点以上の8名。
- 300点が6名、295点が6名の時は、300点の6名と295点の6名の中から決定戦進出者決戦で4名の計10名。
- ☆決定戦進出者決戦では制限時間を設けず、ボタンを押していない選手があと1名となった時点で「やめ」とする。
- ☆決定戦進出者決戦は優勝者決定戦の前に、かけ算、わり算、みとり暗算、みとり算の順で続けて行う。

問題難易度

- かけ算競技
3桁×3桁、4桁×3桁、4桁×4桁、5桁×4桁、5桁×5桁、6桁×5桁
各1題 計6題 制限時間1分
 - わり算競技
÷3桁=3桁、÷3桁=4桁、÷4桁=4桁、÷4桁=5桁、÷5桁=5桁、÷5桁=6桁
各1題 計6題 制限時間1分
 - みとり暗算
4桁10口、5桁10口、6桁10口
各1題 計3題（問題には加減算を含む） 制限時間24秒
 - みとり算
8桁10口、9桁10口、10桁10口
各1題 計3題（問題には加減算を含む） 制限時間1分
- ※『2024年全国そろばんコンクール』の参加団体に、見本問題をデータ送信か郵送する。